

減塩と認知症予防：脳と健康を守るための食事の重要性

日時：2024年1月17日(水)13:00~16:30
 場所：文科省研究交流センター(〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-5)
 共催：農研機構食品研究部門 Greater Tokyo Biocommunity
 後援：全国食品関係試験研究場所長会 他
 参加費：会員(共催後援団体含む) 無料 会員外 5,000円
 交流会費：5,000円
 参加申込み：<https://forms.gle/ztrhdSsCGHt1UC3P9> 締切：1月10日(水)



参加申込み

● 開会挨拶 13:00 フード・フォーラム・つくば 幹事長 / 農研機構食品研究部門 所長

特別講演
13:10~14:10



食と健康：正しい知識で人生を豊かに！

国際医療福祉大学大学院・教授 / 農研機構食品研究部門 非常勤顧問 津金 昌一郎氏

食は人生の大きな楽しみであり、健康にも密接に影響します。誤った知識はその両方を失うことになりかねません。食と健康をつなぐ科学的根拠とは、健康的な食事とは、などについて、現状の正しい知識を紹介します。

講演1.
14:10~14:40

食と健康－信州ACE(エース)プロジェクトの取組－

長野県健康福祉部健康増進課 副参事兼課長補佐 小林 晶子氏

長野県の健康課題である脳卒中等の生活習慣病対策のため、長年取り組んできた減塩活動を中心に、世界一の健康長寿を目指す県民運動である「信州ACE(エース)プロジェクト」の取組についてお話しします。

講演2.
14:40~15:10



塩味増強素材の評価と減塩食品への応用

農研機構食品研究部門 食品健康機能研究領域 上級研究員 河合 崇行氏

昨今、様々な減塩素材が開発されています。その中には、錯覚によって塩味が強くなったように感じさせる素材も存在します。本講演では、味の錯覚がどのようにして起きているのかを説明し、それらを評価・利用する方法について解説します。

<休憩 15:10~15:30>

講演3.
15:30~16:00



健康の維持増進のためのセルフケア食の開発

農研機構食品研究部門 エグゼクティブリサーチャー

/(一社)セルフケアフード協議会 代表理事) 山本(前田) 万里氏

今後の健康維持増進のため、個人の健康の見える化を適切な方法で行い、個人に健康状態に適したセルフケア食品を提供するような個別化システムを提案していくことが重要になる。本講演では、今まで実施してきたSIP事業の成果を中心に紹介する。

講演4.
16:00~16:30



「食による脳老化回避」に関する研究

東京大学大学院新領域創成科学研究科・准教授 久恒 辰博氏

高齢者研究やモデルマウス研究を行い、食による脳老化回避の可能性を示してきた。本日は、特に肉類に含まれるイミダゾールジペプチドによる脳老化回避について、得られた研究結果に基づき、推定される作用メカニズムを含めて言及を行いたい。

- 閉会挨拶 フード・フォーラム・つくば 副幹事長
- 交流会：17:15~



問い合わせ先

フード・フォーラム・つくば事務局(萩原・亀谷・塚田)

E-mail: office@fft.gr.jp TEL: 029-838-8010 URL: <https://www.fft.gr.jp>